

岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会議事録

1 日時

令和 7 年 12 月 19 日（金）13：30～

2 場所

岡崎市役所 西庁舎 7 階 704 号室
（オンライン会議にて開催）

3 評価委員

出席者

委員長：名城大学教授	鈴木 温 氏
委員：名古屋大学准教授	井料 美帆 氏
委員：名古屋大学准教授	中井 健太郎 氏
委員：名古屋市立大学准教授	三浦 哲司 氏

4 事務局

土木建設部建設企画課課長	村井 宣雄
土木建設部建設企画課副課長	萩原 浩晃
土木建設部建設企画課係長	平岩 美佳
土木建設部建設企画課主査	小林 隆幸
上下水道局上下水道部下水道工事課主査	横山 雄人
上下水道局上下水道部下水道工事課主査	加塚 勝英
上下水道局上下水道部下水道工事課技師	河合 遼真

5 傍聴人

なし

6 委員会次第

(1) 開会

委員長選任

(2) 議事

「岡崎市六名地区床上浸水対策計画」事後評価

(3) 閉会

7 配布資料

- ・ 事後評価調書
- ・ 事業説明資料

8 会議要旨

- (1) 本委員会は、「岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領」第2条の規定により、公開となることの説明
- (2) 委員長の選出、鈴木委員を委員長に選出
- (3) 議事（事務局説明、質疑応答）

9 議事内容

鈴木委員長	「岡崎市六名地区床上浸水対策計画」の事後評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（「岡崎市六名地区床上浸水対策計画」の概要と事後評価（案）について説明。）
鈴木委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
井料委員	事業の重要性は実施時にも議論されていると思いますが、実際に発生した台風に対しての浸水被害も防げたこともあり、シミュレーションの計算だけでなく実績も含めて対策の効果があり市民の皆様にとっても実感を持って受け止められていると思います。そういった意味で、事業効果が発現しているのがよくわかる内容であると思います。 時間最大雨量で比較した際に、同等規模とお話いただきましたが、雨量は累積で効いてくると思うので、元々の想定雨量と今回の台風 15 号の雨量を累加雨量で比較した場合の位置づけを教えてください。
事務局	平成 20 年 8 月末豪雨の時間最大降雨は 71mm であり、累加雨量は約 337mm であります。令和 7 年 9 月 5 日に降った時間最大雨量は 78mm であり、累加雨量は 202.5mm であります。時間雨量については今回の方が若干多いですが、累加雨量については平成 20 年 8 月末豪雨の方が約 130mm 多い状況です。ただ、今回でも 200mm 以上の雨が降っていますし、事業効果としては、床上浸水、床下浸水ともに 0 戸でしたので効果は十分に発現していたと思います。

井料委員	当然、全く同等の雨量は難しいと思っています。性能がシミュレーションどおりに発現しているのであれば、平成 20 年 8 月末豪雨に近い雨でも耐えられるものであると思いますし、今回の台風 15 号でも実際に効果を発現しているため問題ないと考えています。
鈴木委員長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
中井委員	効果は写真や実績含め出ていますし、住民にとっても有益だったと判断しています。若干 B/C は目標を切っているが非常に高い数値ですので評価はできますし、維持費も時代の流れもありやむを得ないと考えています。 質問になりますが、六名雨水ポンプ場は占部川への流入が多くなり危なかった時に稼働するものであり、常に稼働していないという理解でよろしいですか。
事務局	そのとおりです。
中井委員	メンテナンス等を考えたとき数ヶ月動かない場合もある中で、急な雨に対して何かしらのトラブルはないか、対応は用意されているのか。また、将来地震等の複合災害も考えられるが、そういった対策が取られているのか、今後考えていかないといけないかがあれば教えてください。
事務局	六名雨水ポンプ場が完成しても全ての降雨に対して効果的であるものではないと思っています。また、六名は浸水常襲地区ということもあり、建設当初から自助に対しても意識が高く理解も得られています。そのため、ソフト対策の 1 つとして地域住民には逃げ時マップを用意・配布しています。また、浸水警報装置も設置していきまして、ある程度道路上の水位が上がるとサイレンになり住民への周知等の 2 次被害対策もしています。 ポンプ場のメンテナンス自体も維持管理で適宜入っていますので、完成して 2 年ほど経ちますが問題なく稼働しています。
中井委員	まだ完成して新しいのでトラブル等はないと思いますが、例えば長期の視点で見ますと、稼働しているとトラブルが見つかりやすいですが、何か月も稼働してないと発見しにくい場合もあるので、長期的な視野も入れていただくといいと思います。事業自体は非常に効果があるものと評価しています。
鈴木委員長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

三浦委員	評価自体の異論はなく、中井委員とのやり取りでもありましたが、ポンプ場が完成して安心ではなくポンプ場でも防ぎきれない災害も起こり得る可能性がありますので、ソフト対策も合わせて取り組んでいくことが重要であり、取り組みをされているということも理解しました。 B/C について、B の部分はマニュアルを見ればよいとは思いますが、平成 20 年や平成 23 年の浸水被害による経済的損失はいくらですか。また、それに基づいて積算されていると思いますが、その根拠を教えてください。
事務局	まず、便益の出し方を説明します。被害防止便益がありますが、その中に直接被害と間接被害があります。直接被害は家屋や家庭用品などの、一般被害と公共土木施設等の被害があり、間接被害は事務所などの営業停止被害や自治体などの応急対策被害があります。それらの評価額がマニュアルで決まっていまして、シミュレーション結果に応じた被害率を乗じたものが貨幣価値化した便益となります。そこから整備前後における被害額の軽減額を算出し導き出したものが便益となりまして、シミュレーション結果では 50 年確率降雨ですと整備前と整備後では 10 億円程度軽減される見込みとなっています。
三浦委員	基本的にはマニュアルに沿って積算していけば振れ幅なく結果が出るイメージでいいですか。
事務局	そのとおりです。マニュアルに沿って評価額の単価も決まっていますので、それを積算していく流れになります。
三浦委員	もう 1 つの質問である過去の浸水被害額は算出できますか。
事務局	50 年確率降雨の場合、整備前の被害額は約 28 億円になりますが、今回整備行ったことにより約 18 億円となり被害としては、軽減されることになります。
三浦委員	平成 20 年や平成 23 年の被害により床上浸水になって家屋が浸水する、仕事を失う等の話と、マニュアルとは切り離して考えているのか。
事務局	マニュアルでは、3年、5年、7年、10年、50年確率降雨で被害軽減額を積算していますが、10年確率降雨程度であれば、整備後の被害額はゼロになります。ただ、それ以上の大きい降雨が発生した場合は被害額がゼロになるわけではなく軽減されま

	す。50年確率降雨で確認すると整備前後で約10億円の被害が軽減されます。
--	--------------------------------------

10 結果

今回審議された事後評価案が妥当であることを判断する旨、全委員一致で採決された。